|  |
| --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（１年め）** |
| **１．事業計画の概要** |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立泉北高等学校 |
| **取り組む課題** | キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現） |
| **評価指標** | * 国内外大学の総合型選抜（AO入試・多目的評価入試等）合格者数
* 図書館における地域プロジェクト会議開催回数
* 課題研究における文献検索・グループワーク、アクティブ会議スペースとしての図書館活用回数
* 年間図書館利用者数、年間図書貸出数
 |
| **計画名** |  SHARE-BRARY プロジェクト ～SDGs未来高校をめざして～ |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** |  |  |  |
| **学校経営計画の****中期的目標** | １　新しい時代のキャリア教育ア 課題研究等の取組みを通して「自ら課題を見つけ、調査・研究し、分析・考察を行う」能力と「知り得た知識や情報を他の者にうまく伝える」能力の育成を図る。イ 国内大学のグローバル化、海外の大学への進学ニーズに対応するとともに、AO入試や総合型選抜（課題研究、長期・短期留学論文等）への対応を図る。エ 地域での体験的活動や外部機関との連携等を通して、今後の社会形成に積極的に関わろうとする意欲の醸成を図る。４　開かれた学校づくり（１） 地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。地元堺市がSDGs未来都市であることを踏まえ、SDGsのNo.11「住み続けられる街づくりを」の具現化に取り組む。イ 堺市社会福祉協議会及び地元自治会、地元企業、NPO法人等との連携を深め、各種イベントや社会貢献活動等への積極的な参加をめざす。 |
| **事業目標** | 図書館という閉鎖的な空間をオープンにし、地域住民を含む誰もが利用できる図書館づくりを推進する。生徒の年間利用回数や読書冊数の引き上げを図るとともに、いつでも探究活動、読書、コミュニケーション、フィールドワークを行うことができるコミュニティスペースとし、この場をベースに生徒が身につけた能力を活かした大学の総合型選抜において、合格者増を図る。また堺市と連携し、地元の児童・学生や地域住民が参加する「国際会議」や「プロジェクト会議」を開催し、SDGsのNo.11「住み続けられる街づくりを」の具現化に取り組むことを通して、地域の「教育拠点校」としての機能・役割を果たし、「SDGs未来高校」の称号を獲得する。 |
| **整備した****設備・物品** | 図書室リニューアル* 設備：ステージ、窓際カウンター、移動書架、照明
* 物品：人工樹木、オットマン、入口サイン、ホワイトボード
 |
| **取組みの****主担・実施者** | 企画運営： 課題検討委員会（校長・教頭・首席・科長・教務主任・進路指導主事） 図書広報部（部長＋７名）　探究委員会（探究主担＋10名）実 施 者： 全教員 |
| **本年度の****取組内容** | * 図書館のリニューアル工事期間が長引き、年度内にシェアブラリーとして活用することができなかった。
 |
| **成果の検証方法****と評価指標** | 1. 探究活動（課題研究）の成果を活かし、大学の総合型選抜の合格者を20名以上に増やす。【昨年度18名】
2. 国際会議・プロジェクト会議を３回以上開催する。
3. 探究活動・プロジェクト会議・国際会議・自習空間のための共有スペースとして活用することで図書館来館者を3,000名以上に増やす。【昨年度1,720名（１日平均約11名）】
4. 読書習慣を定着させ、図書貸出し冊数を1,000冊以上に増やす。【昨年度654冊（生徒一人当たり約0.8冊）】
 |
| **自己評価** | 1. 大学の総合型選抜の合格者数23名 （○）
2. 改修工事が長引き、年度内にシェアブラリーの開館ができず、国際会議・プロジェクト会議は、開催できなかった。 （△）
3. リニューアル工事期間が長引いたため図書館の開館は実質７月迄となり、それまでの来館者数は1182名に留まった。 （△）
4. ③と同様の理由により、図書貸出数は538冊に留まった。 （△）
 |
| **次年度に向けて** | * 本年度当初に図書館の利用についての啓発も実施した結果、上記数字は稼働３か月間の実績としては評価できるものである。次年度は年度当初より活用することにより、成果指標の達成をめざしたい。
* 大学の総合型選抜合格者：25名以上
* 国際会議・プロジェクト会議の開催：４回以上
* 図書館来館者：3,500名以上　図書貸し出し冊数：1,500冊以上　をめざす。
 |

**３．事業費報告**

